











### 大選手・多賀安郎復讐

殺人未遂・ウィルス復讐

金井俊夫

「多賀安郎」は、大選手として知られるが、その私生活は非常に複雑である。彼は、殺人未遂の罪で起訴され、ウィルス（ウイルス）の復讐（復讐）を繰り返している。この連載は、彼の人生の裏面を暴くものである。

### 家庭生活から變り 學校生活の兒童等

新生活に順應する迄の心身過勞

お母様への注意事項

新生活に順應する迄の心身過勞。お母様への注意事項。この連載は、新生活に順應するまでの心身の過勞と、お母様への注意事項について述べている。

### 靴が悪いと 體が損ねます

問題なのは子供の靴

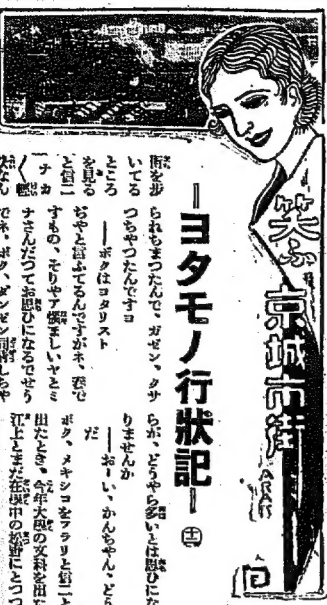
婦人靴に就ても注意



靴が悪いと體が損ねます。問題なのは子供の靴。婦人靴に就ても注意。この連載は、靴の重要性と、子供の靴や婦人靴に注意する必要があることを述べている。

### ヨタモノ行状記

ヨタモノ行状記



ヨタモノ行状記。この連載は、ヨタモノの行状について述べている。



孤立むしろ。光榮とすべし。若槻大助。この連載は、孤立むしろ、光榮とすべし、若槻大助について述べている。

#### リッパール

内服薬時間後、尿に赤い成分が排出される。尿に赤い成分が排出される。リッパール。この薬は、尿に赤い成分が排出される。リッパール。この薬は、尿に赤い成分が排出される。

#### ナニワホテル

ナニワホテルの特色。このホテルは、ナニワホテルの特色。このホテルは、ナニワホテルの特色。このホテルは、ナニワホテルの特色。

#### 伏見代表酒

伏見代表酒。この酒は、伏見代表酒。この酒は、伏見代表酒。この酒は、伏見代表酒。

#### サクラビール

サクラビール。このビールは、サクラビール。このビールは、サクラビール。このビールは、サクラビール。







町本内  
居  
社 敬  
西三〇六

北村 小松  
河合 良成  
外交時評  
わが交友録  
市島春城  
均 芦田

[illegible]

しよも品 しよも型 しよも堅  
を器本はにらかるなき聴お

所作製器電下松

受信機

當選號

二重放送の受信には  
セツトの選擇が肝心

標準型

先づ分離の良いものを  
選ばなければなりません。  
てないと混信する  
虞があります。お素人  
の方はナショナルの如  
く名前のよく通つたも  
のをお選びになるのが  
一番安全な方法です。

濕布  
に優れる

感冒肺炎咽喉痛

「効の完全を期するために」

濕布廠封包薬品の御購入を奨ふ

時エキホスと稱しエキホ  
又はその類財品の大量包  
装より適宜小罐に容れて分  
賣する向有之義に開き及び  
中候處右者屢々陳腐又は吸  
濕せるため藥効の完全を期  
し難く候間御購入の際はエ  
キホス製造元の特許包裝法  
によれる嚴封品と御指定奉  
願上候

價格  
低廉

一〇〇支入 一五〇支入  
五〇〇支入 二キロ五入  
(國有省店店にあり)

武野合巴大  
長野合巴大  
兵衛合巴大  
商店社  
(町修道區東市阪大)

元寶製  
元寶製

33 290.00

法人登記公告

法人登記公告  
茲因本會所屬之各團體及個人等  
業經向主管機關辦理登記手續  
業經核准在案茲將各該團體及  
個人之名稱及代表人姓名等  
分別公告如左  
一 中華民國十八年四月  
二 中華民國十八年五月  
三 中華民國十八年六月  
四 中華民國十八年七月  
五 中華民國十八年八月  
六 中華民國十八年九月  
七 中華民國十八年十月  
八 中華民國十八年十一月  
九 中華民國十八年十二月  
十 中華民國十八年一月  
十一 中華民國十八年二月  
十二 中華民國十八年三月  
十三 中華民國十八年四月  
十四 中華民國十八年五月  
十五 中華民國十八年六月  
十六 中華民國十八年七月  
十七 中華民國十八年八月  
十八 中華民國十八年九月  
十九 中華民國十八年十月  
二十 中華民國十八年十一月  
二十一 中華民國十八年十二月  
二十二 中華民國十八年一月  
二十三 中華民國十八年二月  
二十四 中華民國十八年三月  
二十五 中華民國十八年四月  
二十六 中華民國十八年五月  
二十七 中華民國十八年六月  
二十八 中華民國十八年七月  
二十九 中華民國十八年八月  
三十 中華民國十八年九月  
三十一 中華民國十八年十月  
三十二 中華民國十八年十一月  
三十三 中華民國十八年十二月  
三十四 中華民國十八年一月  
三十五 中華民國十八年二月  
三十六 中華民國十八年三月  
三十七 中華民國十八年四月  
三十八 中華民國十八年五月  
三十九 中華民國十八年六月  
四十 中華民國十八年七月  
四十一 中華民國十八年八月  
四十二 中華民國十八年九月  
四十三 中華民國十八年十月  
四十四 中華民國十八年十一月  
四十五 中華民國十八年十二月  
四十六 中華民國十八年一月  
四十七 中華民國十八年二月  
四十八 中華民國十八年三月  
四十九 中華民國十八年四月  
五十 中華民國十八年五月  
五十一 中華民國十八年六月  
五十二 中華民國十八年七月  
五十三 中華民國十八年八月  
五十四 中華民國十八年九月  
五十五 中華民國十八年十月  
五十六 中華民國十八年十一月  
五十七 中華民國十八年十二月  
五十八 中華民國十八年一月  
五十九 中華民國十八年二月  
六十 中華民國十八年三月  
六十一 中華民國十八年四月  
六十二 中華民國十八年五月  
六十三 中華民國十八年六月  
六十四 中華民國十八年七月  
六十五 中華民國十八年八月  
六十六 中華民國十八年九月  
六十七 中華民國十八年十月  
六十八 中華民國十八年十一月  
六十九 中華民國十八年十二月  
七十 中華民國十八年一月  
七十一 中華民國十八年二月  
七十二 中華民國十八年三月  
七十三 中華民國十八年四月  
七十四 中華民國十八年五月  
七十五 中華民國十八年六月  
七十六 中華民國十八年七月  
七十七 中華民國十八年八月  
七十八 中華民國十八年九月  
七十九 中華民國十八年十月  
八十 中華民國十八年十一月  
八十一 中華民國十八年十二月  
八十二 中華民國十八年一月  
八十三 中華民國十八年二月  
八十四 中華民國十八年三月  
八十五 中華民國十八年四月  
八十六 中華民國十八年五月  
八十七 中華民國十八年六月  
八十八 中華民國十八年七月  
八十九 中華民國十八年八月  
九十 中華民國十八年九月  
九十一 中華民國十八年十月  
九十二 中華民國十八年十一月  
九十三 中華民國十八年十二月  
九十四 中華民國十八年一月  
九十五 中華民國十八年二月  
九十六 中華民國十八年三月  
九十七 中華民國十八年四月  
九十八 中華民國十八年五月  
九十九 中華民國十八年六月  
一百 中華民國十八年七月  
一百零一 中華民國十八年八月  
一百零二 中華民國十八年九月  
一百零三 中華民國十八年十月  
一百零四 中華民國十八年十一月  
一百零五 中華民國十八年十二月  
一百零六 中華民國十八年一月  
一百零七 中華民國十八年二月  
一百零八 中華民國十八年三月  
一百零九 中華民國十八年四月  
一百一十 中華民國十八年五月  
一百一十一 中華民國十八年六月  
一百一十二 中華民國十八年七月  
一百一十三 中華民國十八年八月  
一百一十四 中華民國十八年九月  
一百一十五 中華民國十八年十月  
一百一十六 中華民國十八年十一月  
一百一十七 中華民國十八年十二月  
一百一十八 中華民國十八年一月  
一百一十九 中華民國十八年二月  
一百二十 中華民國十八年三月  
一百二十一 中華民國十八年四月  
一百二十二 中華民國十八年五月  
一百二十三 中華民國十八年六月  
一百二十四 中華民國十八年七月  
一百二十五 中華民國十八年八月  
一百二十六 中華民國十八年九月  
一百二十七 中華民國十八年十月  
一百二十八 中華民國十八年十一月  
一百二十九 中華民國十八年十二月  
一百三十 中華民國十八年一月  
一百三十一 中華民國十八年二月  
一百三十二 中華民國十八年三月  
一百三十三 中華民國十八年四月  
一百三十四 中華民國十八年五月  
一百三十五 中華民國十八年六月  
一百三十六 中華民國十八年七月  
一百三十七 中華民國十八年八月  
一百三十八 中華民國十八年九月  
一百三十九 中華民國十八年十月  
一百四十 中華民國十八年十一月  
一百四十一 中華民國十八年十二月  
一百四十二 中華民國十八年一月  
一百四十三 中華民國十八年二月  
一百四十四 中華民國十八年三月  
一百四十五 中華民國十八年四月  
一百四十六 中華民國十八年五月  
一百四十七 中華民國十八年六月  
一百四十八 中華民國十八年七月  
一百四十九 中華民國十八年八月  
一百五十 中華民國十八年九月  
一百五十一 中華民國十八年十月  
一百五十二 中華民國十八年十一月  
一百五十三 中華民國十八年十二月  
一百五十四 中華民國十八年一月  
一百五十五 中華民國十八年二月  
一百五十六 中華民國十八年三月  
一百五十七 中華民國十八年四月  
一百五十八 中華民國十八年五月  
一百五十九 中華民國十八年六月  
一百六十 中華民國十八年七月  
一百六十一 中華民國十八年八月  
一百六十二 中華民國十八年九月  
一百六十三 中華民國十八年十月  
一百六十四 中華民國十八年十一月  
一百六十五 中華民國十八年十二月  
一百六十六 中華民國十八年一月  
一百六十七 中華民國十八年二月  
一百六十八 中華民國十八年三月  
一百六十九 中華民國十八年四月  
一百七十 中華民國十八年五月  
一百七十一 中華民國十八年六月  
一百七十二 中華民國十八年七月  
一百七十三 中華民國十八年八月  
一百七十四 中華民國十八年九月  
一百七十五 中華民國十八年十月  
一百七十六 中華民國十八年十一月  
一百七十七 中華民國十八年十二月  
一百七十八 中華民國十八年一月  
一百七十九 中華民國十八年二月  
一百八十 中華民國十八年三月  
一百八十一 中華民國十八年四月  
一百八十二 中華民國十八年五月  
一百八十三 中華民國十八年六月  
一百八十四 中華民國十八年七月  
一百八十五 中華民國十八年八月  
一百八十六 中華民國十八年九月  
一百八十七 中華民國十八年十月  
一百八十八 中華民國十八年十一月  
一百八十九 中華民國十八年十二月  
一百九十 中華民國十八年一月  
一百九十一 中華民國十八年二月  
一百九十二 中華民國十八年三月  
一百九十三 中華民國十八年四月  
一百九十四 中華民國十八年五月  
一百九十五 中華民國十八年六月  
一百九十六 中華民國十八年七月  
一百九十七 中華民國十八年八月  
一百九十八 中華民國十八年九月  
一百九十九 中華民國十八年十月  
二百 中華民國十八年十一月  
二百零一 中華民國十八年十二月  
二百零二 中華民國十八年一月  
二百零三 中華民國十八年二月  
二百零四 中華民國十八年三月  
二百零五 中華民國十八年四月  
二百零六 中華民國十八年五月  
二百零七 中華民國十八年六月  
二百零八 中華民國十八年七月  
二百零九 中華民國十八年八月  
二百一十 中華民國十八年九月  
二百一十一 中華民國十八年十月  
二百一十二 中華民國十八年十一月  
二百一十三 中華民國十八年十二月  
二百一十四 中華民國十八年一月  
二百一十五 中華民國十八年二月  
二百一十六 中華民國十八年三月  
二百一十七 中華民國十八年四月  
二百一十八 中華民國十八年五月  
二百一十九 中華民國十八年六月  
二百二十 中華民國十八年七月  
二百二十一 中華民國十八年八月  
二百二十二 中華民國十八年九月  
二百二十三 中華民國十八年十月  
二百二十四 中華民國十八年十一月  
二百二十五 中華民國十八年十二月  
二百二十六 中華民國十八年一月  
二百二十七 中華民國十八年二月  
二百二十八 中華民國十八年三月  
二百二十九 中華民國十八年四月  
二百三十 中華民國十八年五月  
二百三十一 中華民國十八年六月  
二百三十二 中華民國十八年七月  
二百三十三 中華民國十八年八月  
二百三十四 中華民國十八年九月  
二百三十五 中華民國十八年十月  
二百三十六 中華民國十八年十一月  
二百三十七 中華民國十八年十二月  
二百三十八 中華民國十八年一月  
二百三十九 中華民國十八年二月  
二百四十 中華民國十八年三月  
二百四十一 中華民國十八年四月  
二百四十二 中華民國十八年五月  
二百四十三 中華民國十八年六月  
二百四十四 中華民國十八年七月  
二百四十五 中華民國十八年八月  
二百四十六 中華民國十八年九月  
二百四十七 中華民國十八年十月  
二百四十八 中華民國十八年十一月  
二百四十九 中華民國十八年十二月  
二百五十 中華民國十八年一月  
二百五十一 中華民國十八年二月  
二百五十二 中華民國十八年三月  
二百五十三 中華民國十八年四月  
二百五十四 中華民國十八年五月  
二百五十五 中華民國十八年六月  
二百五十六 中華民國十八年七月  
二百五十七 中華民國十八年八月  
二百五十八 中華民國十八年九月  
二百五十九 中華民國十八年十月  
二百六十 中華民國十八年十一月  
二百六十一 中華民國十八年十二月  
二百六十二 中華民國十八年一月  
二百六十三 中華民國十八年二月  
二百六十四 中華民國十八年三月  
二百六十五 中華民國十八年四月  
二百六十六 中華民國十八年五月  
二百六十七 中華民國十八年六月  
二百六十八 中華民國十八年七月  
二百六十九 中華民國十八年八月  
二百七十 中華民國十八年九月  
二百七十一 中華民國十八年十月  
二百七十二 中華民國十八年十一月  
二百七十三 中華民國十八年十二月  
二百七十四 中華民國十八年一月  
二百七十五 中華民國十八年二月  
二百七十六 中華民國十八年三月  
二百七十七 中華民國十八年四月  
二百七十八 中華民國十八年五月  
二百七十九 中華民國十八年六月  
二百八十 中華民國十八年七月  
二百八十一 中華民國十八年八月  
二百八十二 中華民國十八年九月  
二百八十三 中華民國十八年十月  
二百八十四 中華民國十八年十一月  
二百八十五 中華民國十八年十二月  
二百八十六 中華民國十八年一月  
二百八十七 中華民國十八年二月  
二百八十八 中華民國十八年三月  
二百八十九 中華民國十八年四月  
二百九十 中華民國十八年五月  
二百九十一 中華民國十八年六月  
二百九十二 中華民國十八年七月  
二百九十三 中華民國十八年八月  
二百九十四 中華民國十八年九月  
二百九十五 中華民國十八年十月  
二百九十六 中華民國十八年十一月  
二百九十七 中華民國十八年十二月  
二百九十八 中華民國十八年一月  
二百九十九 中華民國十八年二月  
三百 中華民國十八年三月  
三百零一 中華民國十八年四月  
三百零二 中華民國十八年五月  
三百零三 中華民國十八年六月  
三百零四 中華民國十八年七月  
三百零五 中華民國十八年八月  
三百零六







### 大日本米穀大 會を願ひて

願ひの感

米穀大會在京開催の運びとなり、米穀関係者、農業者、消費者、政府、民間、各方面の努力を要する。大日本米穀大會在京開催の運びとなり、米穀関係者、農業者、消費者、政府、民間、各方面の努力を要する。



### 鮮・満・台 経済振興座談會

### 自給自足と 統制經濟

日本に最も必要

木村氏、今の時代、自給自足と統制經濟は、日本に最も必要である。自給自足は、食糧、衣料、生活必需品の自給を意味する。統制經濟は、資源の配分、生産の調整、分配の公平を意味する。自給自足と統制經濟は、日本が経済的自立を達成するための唯一の道である。

木村氏、今の時代、自給自足と統制經濟は、日本に最も必要である。自給自足は、食糧、衣料、生活必需品の自給を意味する。統制經濟は、資源の配分、生産の調整、分配の公平を意味する。自給自足と統制經濟は、日本が経済的自立を達成するための唯一の道である。

### 農村更生の基礎

肥田養鶏を提唱す

服部 鏡太郎

農村の更生は、食糧の増産と農民の生活向上にあり。肥田養鶏は、農村の経済を活性化し、農民の生活を豊かにする効果的な方法である。

農村の更生は、食糧の増産と農民の生活向上にあり。肥田養鶏は、農村の経済を活性化し、農民の生活を豊かにする効果的な方法である。

# 日本統制經濟全集

### 各巻新鋭を競ふ 書下ろし新著 時局は 我等に經濟 統制の急務 を促がす!!!

全世界を震へた恐慌の嵐は、資本主義經濟體を傷ける巨獸の姿に。我等は、時局の急変に對して、經濟統制の急務を感ずる。本書は、經濟統制の理論と実践を詳しく解説し、我等が經濟危機に對して取るべき行動を示す。

全十巻内容概目	
第一巻	統制經濟原理 向井 鹿松
第二巻	通貨及信用統制 笠 悟太郎
第三巻	價格統制 河合 良成
第四巻	財政及專賣 井 藤半彌
第五巻	日本經濟統制論 高橋 龜吉
第六巻	産業動員計畫 有澤 廣巳
第七巻	統制經濟政治論 栗友 成美
第八巻	日滿統制經濟 小島 精一
第九巻	統制經濟批判 猪俣 津南雄
第十巻	統制經濟學 大塚 金之助

### 非常時には 非常時 經濟を!!

東京市芝区新橋七丁目  
振替東京八四〇二番 改造社

## 美顏水



立成の美地生と消解のビキニ  
は度一て嘗なんも様母おも様父おのたなあ  
!たしまれさな用愛御てしと要必を業此

美顏水  
美顏洗粉  
美顏クリーム



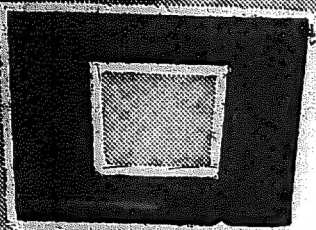








効力第一



ロート

目薬

薬

# 視力保全運動の第一線に立つ

## 世界的眼科薬——井上獨國博士處方

手眼に用ひて眼病を早い目に治すといふことは家庭薬たる目薬の第一使命であります。ロート目薬は優れたる収斂作用、防腐、殺菌作用、消炎作用、鎮痛作用など、凡そ眼病の治療に必要な諸作用を完全に具備し、従つて何等他の薬液を以て眼を洗ふ手数を要せずして速かなる治療効果を有するものであります。

### 家庭薬の使命——効力第一

ロート目薬は本邦眼科界の權威、井上獨國醫學博士が國民眼科衛生の立場に於て治病上並に健眼上、最も有効なりとせる優秀なる處方を、醫學博士中尾万三先生指導の下に嚴製せるものにして我國醫學、藥學の粹を凝めて現代眼科薬の最高標準を行くものであります。

## 現代眼科薬の最高標準を行くもの

網膜を刺激する強烈な光線と過激な摩擦、音もなく襲來する病菌の脅威——激甚な生活戦の前線に闘ひ疲れる眼に安息と榮養とを與へよ。それは近代人の用意だ、常識だ。「世界の眼病國日本」の不名誉から解放されるために先づ目薬の選擇を誤る勿れ。

## 玲瓏・鮮銳の眼!!

## それは近代人の生命だ



「ロート」目薬は、眼病の予防と治療に最も有効な薬液です。眼の疲れ、赤み、涙、かゆみ、腫れ、痛み、視力の低下など、あらゆる眼病に効果的です。毎日点眼することで、眼を健康に保ち、視力を保全できます。

小児用ロート目薬に就て

小児用ロート目薬は、小児の眼に最も適した薬液です。小児の眼は大人と異なり、涙の分泌が盛んで、眼の構造も異なります。小児用ロート目薬は、小児の眼に優しく、効果的に作用します。小児の眼病の予防と治療に最も適した薬液です。

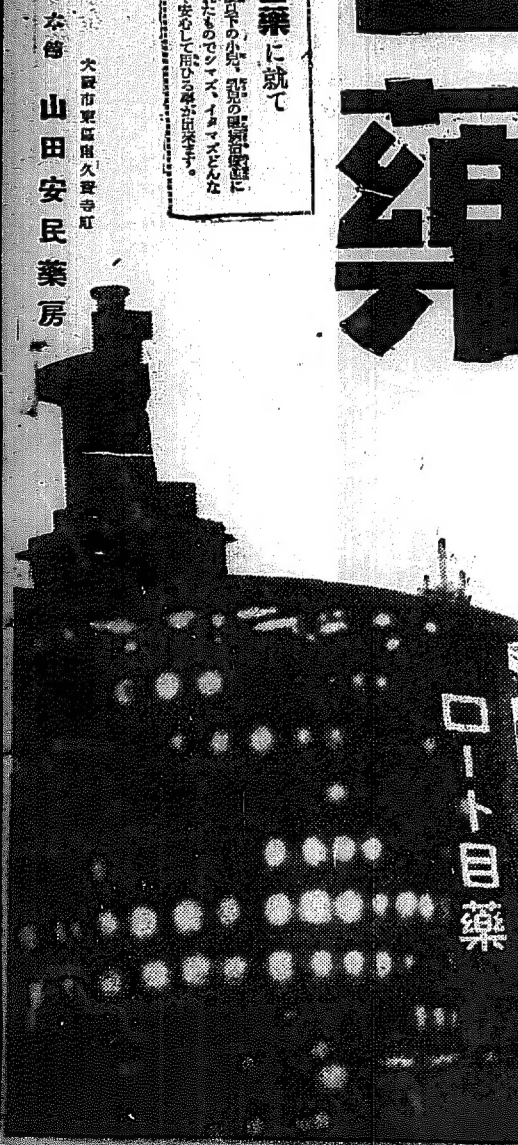
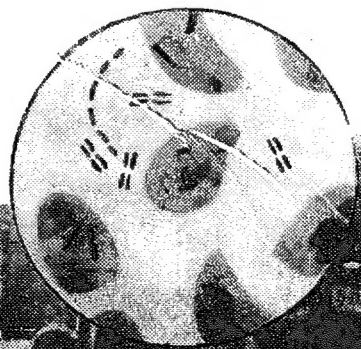
### 適 應 症

- 結膜炎・結膜充血
- 疲労眼・眼瞼炎
- 角膜炎・眼瞼縁炎
- 角膜腫・トラホーム
- 麦粒腫・涙囊炎等
- 俗語のばせ目、はやり目、血目
- たれ目、やに目、雪目、こり目
- かすみ目、めぼし、つき目、星目
- くもり目、はれ目、かわき目等

### 薬價低廉

大瓶	五十銭
中瓶	三十銭
小瓶	二十銭
小児用	二十銭

眼病の原因をなす病原菌



ロート目薬

大田市東區久野寺町  
山田安民薬房







# 鮮展を前にして

荒井龍男氏談

今頃、東京に鮮展の準備がすすんでいる。その準備の中心には、荒井龍男氏の名がのびている。荒井氏は、鮮展の準備委員会の委員長として、この大規模な展覧会の成功を期して奮闘中である。荒井氏は、鮮展の準備に当たっては、まず第一に、鮮展の目的を明確にすることが必要であると述べている。荒井氏は、鮮展の目的は、朝鮮の文化、芸術、産業の発展を促進することにあると述べている。荒井氏は、鮮展の準備に当たっては、まず第一に、鮮展の目的を明確にすることが必要であると述べている。荒井氏は、鮮展の目的は、朝鮮の文化、芸術、産業の発展を促進することにあると述べている。

## 全歐の惑星

五来欣造

その惑星の中心には、全欧の文化、芸術、産業の発展がのびている。全欧の文化、芸術、産業の発展は、全欧の文化、芸術、産業の発展を促進することにある。全欧の文化、芸術、産業の発展は、全欧の文化、芸術、産業の発展を促進することにある。全欧の文化、芸術、産業の発展は、全欧の文化、芸術、産業の発展を促進することにある。

## 南洋の夢の様な生活

金平三

南洋の夢の様な生活。南洋の夢の様な生活は、南洋の夢の様な生活を促進することにある。南洋の夢の様な生活は、南洋の夢の様な生活を促進することにある。南洋の夢の様な生活は、南洋の夢の様な生活を促進することにある。南洋の夢の様な生活は、南洋の夢の様な生活を促進することにある。



春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

## 朝鮮美術協会は 何者であらう

朝鮮美術協会の委員長

朝鮮美術協会の委員長は、朝鮮美術協会の委員長として、この大規模な展覧会の成功を期して奮闘中である。朝鮮美術協会の委員長は、朝鮮美術協会の委員長として、この大規模な展覧会の成功を期して奮闘中である。朝鮮美術協会の委員長は、朝鮮美術協会の委員長として、この大規模な展覧会の成功を期して奮闘中である。

## 川田氏歓迎歌談會

日曜 四月三十日午後五時  
會場 南山町京城ホテル  
主催 朝鮮歌人協會



春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪



春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪

春の太陽 (18)  
久野豊彦作  
田中比左良繪